

2023年11月10日

各位

会社名 PHCホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役社長 CEO 宮崎 正次
(コード: 6523、東証プライム市場)
問合せ先 経営管理部 上席部長 木村 正志
(TEL. 03-5408-7280)

関連会社の株式売却に伴うその他の収益の計上並びに病理資金生成単位における
減損損失の計上及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

PHCホールディングス株式会社(以下「当社」)は、2024年3月期第2四半期において、関連会社の株式売却に伴いその他の収益2,690百万円、及び病理資金生成単位で減損損失2,113百万円をそれぞれ計上しました。また、2024年3月期第2四半期連結累計期間の業績等を踏まえ、2024年3月期(2023年4月1日~2024年3月31日)の業績予想を下記の通り修正しましたのでお知らせいたします。

なお、2024年3月期第2四半期連結累計期間の業績については、本日公表の「2024年3月期 第2四半期決算短信[IFRS]」をご覧ください。

1. Lunaphore Technologies SAの株式売却に伴うその他の収益の計上について

2024年3月期第2四半期において、その他の収益2,690百万円を計上しました。これは、当社の関連会社であるLunaphore Technologies SA(以下「Lunaphore社」)に対しBio-Techne Corporationから100%買収の申し出があり、当社として同申し出はLunaphore社との協業関係を維持しながらも、株式譲渡による売却益も見込めるため妥当と判断し、2023年6月20日の当社取締役会にて決議のうえ同月21日に株式譲渡契約を締結した後、本年7月に当社保有のLunaphore社株式をBio-Techne Corporationへ売却したことによるものです。売却前の当社の保有比率は19%でした。なお、Lunaphore社は、がん研究を支援する次世代製品を提供するスイスのライフサイエンス企業で、免疫組織化学染色(IHC)用の超高速自動組織染色装置の開発を行っており、当社はLunaphore社へ2020年2月に投資し、その後、2022年12月に追加投資を行っていました。

2. 病理資金生成単位におけるのれんの減損損失の計上について

2024年3月期第2四半期に病理資金生成単位において、のれんの減損損失2,113百万円を計上しました。これは、値上げやコスト削減等の施策により業績改善に一定の成果は見られるものの、業績と事業計画の乖離が生じていることや、リスクフリーレートの上昇等により減損の兆候があると判断し、減損テストを実施したことによるものです。

3. 業績予想の修正について

(1) 2024年3月期の連結業績予想数値の修正 (2023年4月1日～2024年3月31日)

	売上収益 (百万円)	営業利益 (百万円)	税引前 利益 (百万円)	当期利益 (百万円)	親会社の 所有者に 帰属する 当期利益 (百万円)	基本的1 株当たり 当期利益 (円)	*調整後 EBITDA (百万円)	*キャッ シュベー スでの親 会社の所 有者に帰 属する当 期利益 (百万円)
前回発表予想 (A)	355,500	29,300	23,400	16,000	15,600	124.21	60,200	23,400
今回修正予想 (B)	355,500	27,100	16,800	14,100	13,700	108.92	60,200	23,400
増減額 (B-A)	—	△2,200	△6,600	△1,900	△1,900	△15.29	—	—
増減率 (%)	—	△7.5	△28.2	△11.9	△12.2	△12.31	—	—
(参考) 前期連 結実績 (2023年 3月期)	356,434	20,000	179	△3,048	△3,222	△25.84	64,882	22,473

(注) EBITDA、調整後 EBITDA 及びキャッシュベースでの親会社の所有者に帰属する当期利益を以下の算式により算出しております。

調整後 EBITDA = EBITDA + 一時的な収益・費用

EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + 減損損失 (有価証券等を除く)

キャッシュベースでの親会社の所有者に帰属する当期利益

= 親会社の所有者に帰属する当期利益 + M&A 関連の有形・無形資産償却費

+ 減損損失 (有価証券等を除く) + 転換権付貸付金時価評価収益・費用 + 法人税見合い調整額

*調整後 EBITDA 及びキャッシュベースでの親会社の所有者に帰属する当期利益は、国際会計基準(IFRS)に則った開示ではありませんが、当社はこの開示が投資家の皆様に有益な情報を提供すると考えています。

(2) 修正の主な理由及び配当予想について

昨今の円安を受け、通期見通しの前提となる為替レートを1ユーロ138円から155円へ、1米ドル133円から144円へ変更しました。これに伴い、為替の好影響を見込むものの、以下の理由により連結売上収益及び連結調整後 EBITDA、キャッシュベースでの親会社の所有者に帰属する当期利益及び配当予想は前回発表予想を維持します。

売上収益は、糖尿病マネジメントにおいては為替の好影響を見込む一方、血糖値測定システム (BGM) 事業の縮小影響及び持続血糖値測定機 (CGM) 事業が想定を下回るリスクを織込みます。ヘルスケアソリューションにおいては、富士フィルムヘルスケアシステムズの電子カルテ・レセプト関連事業の取得完了による増収等を見込みます。診断・ライフサイエンスでは為替の好影響に対し市場環境悪化の影響を織込みます。

営業利益は、糖尿病マネジメントにおいては為替による好影響及び構造改革の効果の発現を見込みます。ヘルスケアソリューションは、上述の事業取得に関連する費用増の他、2024年3月期第2四半期連結累計期間で発生済みのPCR検査減少による利益率の悪化や検査需要の回復が想定より遅れたことによる減益を反映します。診断・ライフサイエンスは、上記2.の減損損失に加え、上述のとおり減収を見込むものの、為替の好影響、値上げ効果、上記1.の収益を反映します。

調整後 EBITDA は、各セグメント別では上述の営業利益の増減理由を織込みますが、一時的要因を調整し、合計は従来予想を維持します。

また、2024年3月期第2四半期連結累計期間までの為替差損の実績と、今後の支払利息の増加を織込み、税引前利益は168億円を見込みます。税額は、借入契約の変更による通期の税額への影響見通しを織込み、当期利益は141億円に変更します。よって、親会社の所有者に帰属する当期利益は137億円となりますが、キャッシュベースでの親会社の所有者に帰属する当期利益は、前回予想を維持、よって年間の配当予想72円も維持します。

以上